サクランボの歴史を学び剪定体 験をするワークショップには13組 の親子と、プロジェクトアンバサ ダーのウド鈴木さんが参加しまし た。セミナーはJAさくらんぼひがし ね西部支店で行われ、講師はJA さくらんぼひがしねの奥山祐介係 長。始めは加工用として広がった というサクランボ栽培の歴史や、 年間の作業などについてクイズを 交えて分かりやすく解説してくれ ました。続いてサクランボの畑に 移動。生産者の植松真二さん(農 業生產法人「松栗」代表取締役) が実際に剪定をして見せて、サク ランボ生産に懸ける思いを語りま した。参加した子どもたちはウドさ んと一緒に剪定された枝を一生 懸命拾い集めていました。

# サクランボの歴史と 剪定について学んだよ



第2回

## 紙ができる過程を学び ノートを作ったよ



2回目のワークショップでは紙 すき体験とリングノート作りを行 いました。紙すきを教えてくれた のは日本製紙東北営業支社の 池田隆男さんと今野良太郎さ ん。パルプと水、粉末にした剪定 枝を容器で混ぜ、型に入れて水 を絞り、アイロンで乾かしてはが き大の紙を作りました。またリン グノート作りは大風印刷の渋谷 恵さんと会津理央さんがサポー ト。印刷会社の製造工程で出た 紙の端材を活用し、カラフルな 素材を組み合わせてコラージュ します。親子であれこれアイデア を出し合いながら、自分だけの ノートを完成させていました。





ウド鈴木さんのおかげで 普通ではできない体験を させていただきました

植松さんの 「生産者の人たちの たくさんの名もなき作業があり、 農産物はできている」 という言葉がとても 印象的でした

くさんの皆さんが関わっていることで 私たち消費者は生かされて 恥ずかしながらこのたび

### ワークショップリポート

山形県でサクランボ栽培が始まり150年という 節目の今年、山形県の誇りと先人の創意工夫を 未来へつなぎ、子どもたちの土台となる「山形愛」 を育もうという願いを込めて始まった「未来につ なごう山形愛」プロジェクト(主催・山形新聞 社)。具体的にはサクランボの剪定枝をアップサ イクルしたノートブックを作成し、今年入学の小 学1年生にプレゼントします。プロジェクトの一 環として、サクランボ栽培やアップサイクルへの 理解を深めてもらおうと、2回のワークショップ を開催しました。その模様をリポートします。



フワフワパルプを初めて 見ました。木が生活の身近なものへと 変わっていく姿が分かりとっても 楽しかったです。紙やティッシュなど、 普段何気なく使っていましたが 今までより大事にしようと 思いました

> 切れ端を再利用するという いろんな紙の種類があって、 手触りや光沢が違って

ウドさんが話を広げてくださる おかげで、より知識が深まり、 楽しく活動できました

150



### アップサイクルノートが完成 県教育長に贈呈しました

サクランボの剪定枝を原料に加えたノートブック ——— がこのほど完成。山形新聞社の寒河江浩二会長・ 主筆が県庁を訪ね、須貝英彦県教育長に贈呈しま した。寒河江会長は「子どもたちが山形を愛する気 持ちを抱き、環境保全に関心を深めてもらいたい」 とあいさつ。須貝教育長は「ノートの理念を伝えた い」と答えました。ノートブックは県内の小学 | 年生 約7000人に贈ります。



プロジェクトで製作したノートを 須貝英彦県教育長(右)に手渡す寒河江浩二会長



#### 会を中心に統一的なプロモーション を展開しています。

企画•制作/山形新聞社広告局 後援/山形県•山形県教育委員会 ■プロジェクトに関するお問い合わせ 山形新聞社広告局「山形愛」事務局 〒990-8550 山形市旅篭町2-5-12 TEL023-664-0295

SPECIAL SUPPORTER

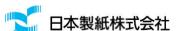
**UNNO HOUSE** 株式会社ウンノハウス









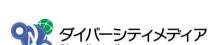


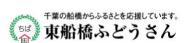
















やまがたフルーツ150周年

2025 (令和7) 年は山形県でサクラン

ボや西洋ナシなどの栽培が始まって

から150年の記念すべき節目の年「や

まがたフルーツ150周年」です。やまが

たフルーツ150周年に、山形県全体で

県産フルーツを盛り上げていくため、

山形県さくらんぼ&フルーツPR協議



〈順不同〉



山形銀行



私たちは持続可能な開発目標(SDGs)を支援しています。



